



発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸 谷 義 雄
題字 井 戸 知 事

もういいかい
火を消すまでは
まあだだよ

平成二六年度全国消防団員意見発表会 消防庁消防団等表彰及び消防庁消防団協力事業所 表示証交付式の開催

平成二七年二月二三日
(月)、都市センターホテル
(東京都千代田区)において、
平成二六年度全国消防団員意
見発表会、消防庁消防団等表
彰及び消防庁消防団協力事業
所表示証交付式が開催されま
した。

第一部の全国消防団員意見
発表会では、各地域で活躍す
る現役の若手・中堅消防団員
一二名が参加し、消防団活動
に関する課題等について意見
を発表しました。今回、兵庫
県代表として、南あわじ市消
防団の中原健輔氏が参加しま
した。中原さんは、「魅せ
ろ！神一魂」ROAD TO
二〇一六 再びあの聖地へ
」と題して、第二回全国



全国消防団員意見発表者

消防操法大会にかける熱い思
いを約三〇〇名の聴衆の前で
発表しました。
残念ながら最優秀賞にはい
たりませんでした。が、中原さ
んの真摯な語り口は、審査員
をはじめとする聴衆の心に響
き、今後の中原さんをはじめ
とした南あわじ市消防団の活
動に、期待と応援を込めた大
きな拍手が寄せられました。
第二部では消防団等地域活
動表彰、防災功労者消防庁長



赤穂市消防団望月団長と中原さん



意見発表の様子

官表彰及び消防庁消防団協力
事業所表示証交付式が行われ
ました。

消防団等地域活動表彰では、
地域に密着し模範となる消防
団活動を行っている三七の消
防団が表彰され、兵庫県から
は神戸市灘消防団が選ばれま
した。神戸市灘消防団は、女
性消防団員による各種救急講
習会をはじめとする応急手当
の普及・啓発活動が認められ
この度表彰されることになり
ました。

また、平成二六年は大規模
な自然災害が頻発しましたが、
これらの災害で顕著な功績が
認められる消防団等に対して
は、消防庁長官から防災功労
者消防庁長官表彰が授与され
ました。兵庫県からは赤穂市
消防団及び丹波市消防団が選
ばれました。

同時に、消防団員確保への
協力や従業員の消防団活動へ
の参加に対する配慮を行って
いる事業所として、新たに淡
路市の三事業所(「ヤマト運
輸株式会社津名東浦セン
ター」、「淡路観光開発株式
会社」、「株式会社八嶋
組」)に対して、総務省消防
庁消防団協力事業所表示証が
交付されました。

全日本消防人共済会防火防災に関する 作文コンクール最優秀賞受賞!!

兵庫県多可町立加美中学校
三年生谷尾慧奈さんが表彰式へ出席

全日本消防人共済会兵庫県支部

平成二六年二月二五日
(木)、日本消防会館七階役
員室にて、全日本消防人共済
会による防火ポスター・防火
防災に関する作文コンクール
表彰式が行われました。

このコンクールは、県内の
応募中学校から一作品を推薦
していただき、兵庫県消防協
会で審査の結果、最も優秀で
あった作品を、全日本消防人
共済会へ推薦しました。全国
の支部から推薦された七三作
品は、すべてについて厳正な
る審査が行われ、その結果、
当県多可町立加美中学校三年
生谷尾慧奈さんの作品『あり
がとう消防団』が、見事最優
秀賞に輝きました。

表彰式では、まず受賞者へ
の表彰状と記念品が贈呈され
その後、受賞者が所属する学
校への記念品贈呈も行われま
した。表彰状等の贈呈後は、
秋本敏文日本消防協会会長の
挨拶、学校関係者の挨拶の後
閉式しました。

全日本消防人共済会への
推薦作品

全国中学生
「防火防災に関する」
作文 最優秀賞

「ありがとう消防団」

多可町立加美中学校三年

谷尾 慧奈

あの災害から三年…。私は
思いもよらぬ体験をしました。
私の家族は父、母、祖母、
弟そして私の五人家族です。
当時父は地元の消防団に入っ
ていました。平成二三年九月、
台風一二号が日本を襲いまし
た。私の住んでいる地域でも

だんだんと雨が強くなり、父
は「集落内の見回りに行つて
くるわ。」と消防団へと行つ
てしまいました。時間が経つ
につれて強くなる雨。父が無
事に帰ってくることを願いま
した。私はその夜自分の部屋
で、台風による雨音に不安を
感じつつもいつものように
ベッドで眠りにつきました。
夜一二時頃のことです。

「慧奈！起きて！ここに
おったら危ないから逃げる
で！」
母が私を起こしました。急
に起こされ何が起っている
かも分からないまま、母と弟
と祖母と私は車に乗り込みま
した。外は、ものすごい雨の
音と近くの川で大きな石が転
がる音が聞こえてきました。
車から見える道路はまるで川
のようになり、脇には山から
流れてきた土砂や木がいつぱ
いでした。それから私の目に
飛び込んできたのは、雨の中
でヘルメットやカップ、長靴
を身に付けた男の人たちの姿
です。このときすぐにこの人
たちは消防団の方々だと分か
りました。避難所に着いた私
は自主避難だったということ
を知りました。私はそんなに
危なかったのだろうか、まだ
避難勧告さえ出していないの
になぜだろうと思いました。そ
の日は自主避難所で一夜を過
ごしました。

家に帰った後、私は父に詳
しいことを聞きました。話を
聞いている中で一番印象を受
けたことは消防団の方々の力
です。私たちが自主避難をし
た理由。それは、公会堂の横
のえん堤から土石流が道路へ
流れ込みそうになり、その道
が寸断されれば孤立状態にな
ってしまふ可能性があった



ため、区長さんと消防団の
方々の判断で自主避難するよ
うに集落放送とサイレンで村
の皆さんに呼びかけをされた
そうです。なかには自分で避
難できない高齢者の方がおら
れたので消防団の方が大切な
命を守るために、寝ておられ
るところを起こしに行かれた
そうです。しかし夜中で雨音
が激しく聞こえず、ガラス
を割って家の中へ入られたそ
うです。そしてその後、おば
あちゃんは消防団の方に連れ
られて私たちと同じ自主避難
所に避難されました。他には
台風が通り過ぎた後も秋雨前
線の影響で水と土砂が出てい
る集落へ戻り、夜を徹して土
木業者の方と一緒に土砂が
通れるように土砂の撤去を
されました。この話を聞いて
消防団の方々や村の役員の
方々の勇敢な姿と判断が村を
守る大きな力になっていたん
だなと思いました。消防団の
方々がおられなければ私が住
んでいる集落はどうなってい
たでしょう。本当に感謝の気
持ちでいっぱいです。私も地
域の防災訓練などにも積極的
に参加しようと思います。

平成二六年度消防庁長官表彰

県下四消防機関二二三名が受章

平成二七年三月六日（金）、平成二六年度消防庁長官表彰式が日本消防会館内ニッショーホールにおいて盛大に執り行われました。

消防庁長官からの式辞に続き、長官から各受章者代表に表彰旗等が伝達されました。その後、日本消防協会会長及び全国消防長会会長から祝辞、受章者代表者謝辞の後、閉会しました。

また、受章者の方々は午後から皇居を参観されました。

県下の受章機関、受章者は次のとおりです。

(敬称略・名簿順)

表彰旗

猪名川町消防団
神戸市兵庫消防団



表彰式の様子

竿頭綬

西はりま消防組合西はりま消防本部・相生市消防団
三田市消防本部・三田市消防団

功労章 一一名

姫路市香寺町消防団
団 長 久斗 譲二
豊岡市出石消防団
団 長 藤井 正昭
伊丹市消防局
消防正監 上原 登
神戸市消防局
消防正監 長岡 賢二
西宮市消防局
消防監 東 寿徳
神戸市消防局
消防監 今村 明
神戸市消防局
消防監 鍵本 敦
姫路市消防局
消防監 櫻井 臣義
神戸市消防局
消防監 中地 弘幸
神戸市消防局
消防監 藤本 博
神戸市消防局
消防監 水島 隆

永年勤続功労章 一二二名

南あわじ市消防団
団 長 大谷 毅
豊岡市但東消防団
副団長 石田 一幸
佐用町消防団
副団長 岡野 晃
丹波市消防団
副団長 荻野 克己
赤穂市消防団
副団長 籠谷 健

尼崎市消防団

副団長 上岡 良照
豊岡市城崎消防団
副団長 岸田 政則
朝来市消防団
副団長 日下 滋明
小野市消防団
副団長 小林 直基
播磨町消防団
副団長 佐伯 達也
養父市消防団
副団長 田中 慎二
神戸市東灘消防団
副団長 西浦 豊
神戸市西消防団
副団長 二星 晴喜
稲美町消防団
副団長 福島 隆雄
西脇市消防団
副団長 藤原 久和
佐用町消防団
副団長 船引 一夫
香美町消防団
副団長 古岡 敏幸
豊岡市豊岡消防団
副団長 細田 優
猪名川町消防団
副団長 前岡 隆顕
淡路市消防団
副団長 増田 純治
朝来市消防団
副団長 松野 秀樹
相生市消防団
副団長 三木 秀明
たつの市消防団
副団長 室井 政則
宍粟市消防団
副団長 森内 伸二
芦屋市消防団
副団長 森岡 忍

神戸市垂水消防団
副団長 八木 耕一
神戸市北消防団
副団長 山田 守男
丹波市消防団
副団長 横井 勝
神戸市北消防団
副団長 鷲尾 慎一
姫路市姫路西消防団
分団長 池内 剛
姫路市姫路東消防団
分団長 井上 英明
川西市消防団
分団長 今仲 道夫
赤穂市消防団
分団長 岩井 清
淡路市消防団
分団長 内田 義弘
相生市消防団
分団長 蛭子 敏彦
姫路市姫路東消防団
分団長 大垣 近良
淡路市消防団
分団長 尾崎 信生
尼崎市消防団
分団長 島端 照夫
三田市消防団
分団長 高槻 勝彦
洲本市消防団
分団長 巽 明彦
養父市消防団
分団長 栃尾 満則
高砂市消防団
分団長 中谷 勝也
西宮市消防団
分団長 中村 和彦
香美町消防団
分団長 西村 一敏
尼崎市消防団
分団長 橋本 治三
加東市消防団
分団長 畑谷 秀樹
姫路市姫路西消防団
分団長 藤井 健一
加古川市消防団
分団長 藤池 滋
太子町消防団
分団長 前田 利幸

加古川市消防団
分団長 森田 秀明
養父市消防団
分団長 安井 卓己
高砂市消防団
分団長 山下 耕司
西宮市消防団
分団長 山下 秀春
新温泉町消防団
副分団長 大久保賀津之
明石市消防団
副分団長 岸本 裕之
尼崎市消防団
副分団長 阪本 正治
宝塚市消防団
団 員 石井 幹男
伊丹市消防団
団 員 岡本 良一
川西市消防団
団 員 隈部 治
三木市消防団
団 員 小松 恒司
香美町消防団
団 員 谷脇 文雄
宝塚市消防本部
消防監 大谷 英次
北はりま消防本部
消防監 徳岡 恒夫
川西市消防本部
消防監 西井 一成
淡路広域消防事務組合
消防司令長 石田 一彦
尼崎市消防局
消防司令長 上田 登
姫路市消防局
消防司令長 表 秀行
姫路市消防局
消防司令長 慶尾 靖雄
北はりま消防本部
消防司令長 上月 幸則
明石市消防本部
消防司令長 河野 誠
赤穂市消防本部
消防司令長 河本 憲昭
伊丹市消防局
消防司令長 櫻井 忠司
宝塚市消防本部
消防司令長 高橋 康宏

豊岡市消防本部
消防司令長 田邊 光之
北はりま消防本部
消防司令長 塚原 義美
西宮市消防局
消防司令長 西岡 克美
西宮市消防局
消防司令長 西口 昌利
加古川市消防本部
消防司令長 西野 四郎
神戸市消防局
消防司令長 西村 康男
小野市消防本部
消防司令長 長谷川勝也
西はりま消防組合
消防司令長 松岡 正平
加古川市消防本部
消防司令長 松下 良史
伊丹市消防局
消防司令長 山下 正実
姫路市消防局
消防司令長 山田 邦彦
明石市消防本部
消防司令長 吉田 優
西はりま消防組合
消防司令長 吉田 好孝
南但消防本部
消防司令 足立 真一
猪名川町消防本部
消防司令 奥田 貢
西宮市消防局
消防司令 片山 達
三田市消防本部
消防司令 川谷 信行
西はりま消防組合
消防司令 木下 恵次
三木市消防本部
消防司令 小島 裕一
高砂市消防本部
消防司令 小南 雅晴
美方広域消防本部
消防司令 田中 正
南但消防本部
消防司令 坪内 明
姫路市消防局
消防司令 豊國 知
尼崎市消防局
消防司令 松田 好広

芦屋市消防本部
消防司令 丸岡 輝雄
尼崎市消防局
消防司令 水野 徹
姫路市消防局
消防司令 柳田 直人
篠山市消防本部
消防司令 山内 泰三
神戸市消防局
消防司令 明石 幸三
神戸市消防局
消防司令 大坪 尚三
神戸市消防局
消防司令 大藪 正人
神戸市消防局
消防司令 片平 久喜
神戸市消防局
消防司令 近藤 正一
神戸市消防局
消防司令 新階 基親
神戸市消防局
消防司令 武田 栄造
神戸市消防局
消防司令 寺谷 等
神戸市消防局
消防司令 長谷 幸雄
神戸市消防局
消防司令 堀江 健一
神戸市消防局
消防司令 森田 義之



受賞者の皆様



平成二六年度第二回 女性消防団員技術研修会開催!! 救急救命講習と防災体験を実施

(公財) 兵庫県消防協会

平成二七年二月一五日
(日) 兵庫県広域防災セン
ターにおいて、今年度二回目
の女性消防団員技術研修会を
開催し、県内二二消防団から
九二名の女性消防団員が参加
しました。

この度の研修会は、二部構
成で午前の部は救急救命講習
を、午後の部は防災体験を行
いました。

まず救急救命講習ですが、
県内各地で開催される市民向
け救急救命講習は、女性消防
団員の活動の中でも大きな位
置を占めています。県内には、
市民向けの救急救命指導は、
一〇〇パーセント消防団員が
行っているという消防団もあ
るほどです。

この度は、兵庫県広域防災
センター救急救命士養成所の



教官による説明とデモンストレーション

教官方と、兵庫県消防学校の
教官方に協力していただき、
心肺蘇生、AEDの使い方を
指導していただきました。

研修会には、ベテランの女
性消防団員さんから、発足間
もない初心者女性消防団員
さんまで、様々な方が参加さ
れています。知識のレベルに
関係無く参加者を班分けし、
それぞれの班で教官方が指導
をしてくださいました。指導
教官から、市民へ指導する際
のポイントとして「胸骨圧迫
は五センチメートル押し込む
とか、一分間に一〇〇回以上
行うなど、数字はきちんと覚
えておき、自信をもってはっ
きり参加者へ伝えることで、
参加者からの信頼を得られ
る。」というアドバイスをく
ださり、多くの参加者の心に
残ったようで、メモをとる姿



各班で胸骨圧迫を実践中



耐熱耐煙室前にて教官から説明を受けます



起震車体験

- 参加消防団については、次
のとおり。
- ・神戸市灘消防団
 - ・神戸市兵庫消防団
 - ・神戸市北消防団
 - ・神戸市垂水消防団
 - ・姫路市姫路東消防団
 - ・姫路市姫路西消防団
 - ・姫路市飾磨消防団
 - ・尼崎市消防団
 - ・明石市消防団
 - ・芦屋市消防団
 - ・伊丹市消防団
 - ・豊岡市豊岡消防団
 - ・豊岡市出石消防団
 - ・加古川市消防団
 - ・赤穂市消防団
 - ・宝塚市消防団
 - ・三木市消防団
 - ・川西市消防団
 - ・小野市消防団
 - ・三田市消防団
 - ・南あわじ市消防団
 - ・播磨町消防団
- ※上記参加者他、県内消防
本部職員・市町防災担当
職員二九名

午後からの防災体験は、寒
い中ではありましたが、屋外
で行いました。起震車や耐熱
耐煙室を初めて体験した参加
者が多く、暗闇や煙が立ちこ
めている中を避難するという
ことが、想像以上に恐ろし
かったようです。起震車では、
過去に起こった地震と同じ規
模の地震を体験し、そのゆれ
の大きさに驚かれた参加者も
多いようでした。このことを
きっかけに、日頃の防災対策
を見直したいという感想が多
く寄せられました。

ロープ結案については、日
常生活にも利用できるものな
ので、自宅へ帰って練習した
いとおっしゃる参加者が非常
に多かったです。教官方の軽
快なトークと的確な指導で、
参加者は飽きることなく、日
頃の防災対策の大切さを学ぶ
ことができました。また、付
き添いで来られている各消防
本部の方々も、積極的にロー
プ結案の指導やアドバイスを
行ってくださり、本当に和気
藹々とした雰囲気でした。

今回は、実技のみで全て班
行動を行い、参加者は皆、班
内のコミュニケーションを充
分に図ることができ、他団と
の繋がりを深められたよう
です。

この度学ばれた内容を、参
加者それぞれが自団へ持ち帰
り、今後の活動に繋げていた
だければと考えます。今後も
県消防協会として、女性消防
団員ならではの活動に役立つ
ような研修内容を考え、女性
消防団員の活動の幅を広げて
いくお手伝いをしていきたい
と思います。女性消防団員の
皆さんが、次回はどのような
ことを学べるのか楽しみにな
るような、バランスのとれた
研修を企画して参りたいと思
いますので、是非ご参加くだ
さい!!

最後にりましたが、本技
術研修会では、県広域防災セ
ンター長をはじめ、消防学校
の皆さまにも多大なご協力を
賜り、本技術研修会を滞りな
く終了することができました。
紙面ではございますが、厚く
御礼申し上げます。

最後になりましたが、本技
術研修会では、県広域防災セ
ンター長をはじめ、消防学校
の皆さまにも多大なご協力を
賜り、本技術研修会を滞りな
く終了することができました。
紙面ではございますが、厚く
御礼申し上げます。

最後になりましたが、本技
術研修会では、県広域防災セ
ンター長をはじめ、消防学校
の皆さまにも多大なご協力を
賜り、本技術研修会を滞りな
く終了することができました。
紙面ではございますが、厚く
御礼申し上げます。



ロープ結案に悪戦苦闘中



教官からロープ結案の説明を受けます

～震災20年・広域防災センター開設10年～ 「広域防災センター実戦デモ」開催！！

消防・警察・自衛隊・防災関係機関等をはじめ一般市民など約4,550名が参加



(公財) 兵庫県消防協会

開会式



主訓練棟にて救助訓練 (座席懸垂降下)

平成二六年一月三〇日(日)兵庫県広域防災センターにて、阪神・淡路大震災二〇年及び広域防災センター開設一〇年を機に、「実戦デモ」が開催され、子どもからお年寄りまでたくさんの来場者がありました。

関係各機関の訓練展示やブース展示だけではなく、地震車による地震体験、煙避難訓練、水消火器体験など体験型の防災学習も行われたほか、自衛隊による炊出訓練では来場者にカレーがふるまわれました。その他、会場内の各ポイントをまわることで来場者が広域防災センター内を漏れなく回ることができるスタンプラリーも企画され、会場内は大いに賑わいました。

今回、当協会も消防団活性化支援事業推進委員会の一員として、消防団活動等パネル展示のブースを設置させていただきました。

このような全県広域防災拠点の平時時及び災害時の活動を紹介する「実戦的なデモ・トレーニング」の開催により、関係機関の連携が深まり、広域防災センターの効果的な活用が図られるとともに、関係機関の活動内容を多数の県民が実際に目にされたことで防災への理解と取組が

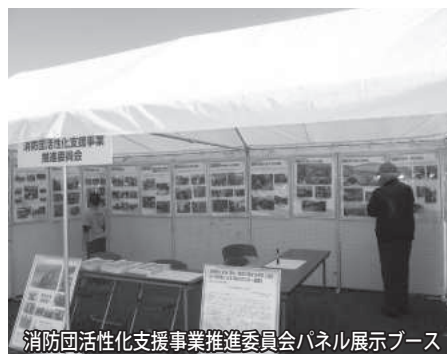
一層促進されるものと期待されます。

この度の「広域防災センター実戦デモ」参加団体は次のとおり。

消防(兵庫県下消防長会東播ブロック、神戸市消防局、兵庫県消防防災航空隊、兵庫県婦人防火クラブ)、兵庫県警察、自衛隊、兵庫県トラック協会、NTT西日本、ラジオ関西、イオンリテール(株)、NPO法人兵庫県防災士会、NPO法人つみつ庫クラブ、NPO法人ひと・コネクト兵庫、ばんぶふあみりー、神戸クロスロード研究会、兵庫県立大学学生復興支援団体LAN、関西国際大学、県立舞子高校環境防災科、日本赤十字社兵庫支部、DMAT(災害派遣医療チーム)、兵庫県災害医療センター、神戸地方気象台、人と防災未来センター、フェニックス共済、三木市危機管理課、北播磨県民局、巻き寿司応援団、消防団活性化支援事業推進委員会



開会式
(上り口センター長挨拶)



消防団活性化支援事業推進委員会パネル展示ブース



備蓄倉庫見学



消防車両実走



起震車体験



炊出訓練



関連団体ブース展示



救急車両実走



関連団体ブース展示



消防車両展示



自衛隊車両実走



自衛隊による救助訓練



消防による救助訓練 (障害突破)



警察車両実走



高所活動車乗車体験



警察による救助訓練



記念撮影のため消防士に変身中の子供達



自衛隊車両展示



自衛隊車両実走



消防車両実走



消防による救助訓練 (ほふく救出)



消防による救助訓練 (障害突破)



消防車両展示



消防ヘリによる要救助者救助訓練



『頼られる消防団をめざして』

豊岡市竹野消防団

豊岡市は、平成一七年四月一日、兵庫県北東部に位置する一市五町が合併してできたまちです。コウノトリの野生復帰をシンボルとした環境と経済の共鳴を目指す豊岡エコバレーの取組みは、世界的にも高い評価を受けており、人口規模は小さくても世界の人々に尊敬され、尊重されるまち『小さな世界都市』豊岡を目指し、一歩ずつ、一歩ずつ歩みを進めています。

消防団は、県内一広い市域において、様々な態様の災害に迅速に対応するためには、より現場に近いところで判断することが適切であることや、地域に根ざした消防団活動を継承するため、市町合併前の六消防団を残す多団制を採用しています。

北部の海岸線から南部の山間地域まで、変化に富んだ美しい地形を有する旧竹野町を管轄する我が団は、六分団二



機関の取扱いで臨時に講習を受ける団員たち

三部で構成され、約三十一人の団員が所属しています。

月二回の機関定期点検及び放水訓練をはじめ、新入団員基本訓練、たけの海上花火大会の警戒、操法大会を含む夏季訓練、教養訓練、火災予防運動週間における防火パレード、普通救命講習会、年末特別警戒など地域防災の要として日夜積極的



ホースが何本も展開されます

平成二六年度の教養訓練では、不時召集訓練を実施しました。これは、的確な状況判断と指揮能力の向上、迅速かつ安全に消火活動を行う技術力を身につけるために行うもので、正副団長以外は実施日すら知らされていない、実践に限りなく近い訓練です。

午前六時、防災行政無線から訓練開始の緊急放送が流れると同時に、Eメール指令システムにより全団員の携帯電話に訓練場所の位置情報が伝えられます。九分後に一番隊が到着し、水源である防火水槽横に部署して元ポンプとしてホースを延長すると、後着の分団が中継送水の隊形をとっていきます。二五分後に最後の分団が到着し、全放水隊形が完了しました。

日頃の訓練の成果を十分に発揮する団員がいる一方で、基本動作が出来ておらず部長から注意を受ける団員、機関の取り扱いが不十分なため消防職員からその場で臨時講習を受ける団員がいるなど、多くの反省点や改善点を洗い出すことができ、早速、次の定期点検時に反復練習する団員の姿がありました。



到着後直ぐにホースを延長する団員

このような訓練や活動を通じて、地域における防火・防災のリーダーとして、「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛あふれる心意気を発信し続け、地域の皆さんから頼られる消防団を目指します。

『地域に密着した消防団を目指して』

相生市消防団

相生市は、播磨路に初夏を告げるペーロン祭で親しまれ、兵庫県の南西部に位置し、「いのち輝き 絆でつながる あいのまち」が本市の将来像であり、市民一人ひとりが絆でつながり、思いやる気持ちが持ち、魅力ある活気にみちた都市づくりを目指しています。

相生市消防団は、昭和一四年に相生町警防団を発足し、昭和一七年の市制執行に伴い相生市消防団と改称されました。

その後、昭和二九年、赤穂郡若狭野村及び矢野村が当市に合併され、名実とともに相生市消防団となり、平成一六

年の機構改革により、現在の一分団、団員定数は五二〇名となっております。

装備は、CD-I型消防ポンプ自動車一〇台、小型ポンプ積載車五台を配備しており、阪神・淡路大震災及び東日本大震災を教訓に、チェンソー・発電機等の救助資機材の整備、また、当市は、海岸に面した地域でもあり、団員の安全確保を図るため、ライフジャケット及び車載式無線機の他に、デジタル式トランシーバーの整備も随時、実施しております。

消防団の行事として、研修関係は、毎年一〇月に新入団員を対象に消防団員としての心構えや礼式等の規律訓練、基礎技術訓練を実施し、また、定期的に分団長以上の幹部に対しても危機管理講習等の研修を実施しています。訓練関係では、毎月の定期訓



林野火災における消防団の消火活動



出初式放水体験

このように日頃から地域で積極的に活動していることから今では、子供からお年寄りまで幅広く愛され、信頼され、地域の防災リーダーとしても重要な役割を担っています。

今後も様々な消防団活動を通して、更に、地域と密着し「災害に強いまちづくり」「安全・安心のまちづくり」を目指して頑張っていきます。



防災訓練における活動

から警備も実施しております。

各地域の畦焼及びどんど警戒、祭り等の催しの警備をする傍ら、火災予防啓発も行っております。

自主防災組織への訓練指導も消防団員の重要な役割でもあり、毎年開催される中学校校区単位の防災訓練に管轄地区の分団が積極的に参加し、応急担架作成や消火器の取扱いなど

消防団員が消防署員とともに指導を行っています。

消防出初式には、子供たちが楽しく学べる消防体験コーナーとして、ちびっこ放水体験を設けるなど、消防団に興味を持つて頂き、未来の消防団員の担い手の育成など消防団入団推進も行っております。

昨年、六月の昼間に発生した林野火災においては、折からの強風に煽られ、隣接する工場及び同敷地内の燃料タンク延焼危険がありました。消防団・消防署及び県消防航空隊等と連携を密にし、日没までに消火できました。

前述した以外にも、警戒活動として、春秋の火災予防運動及び年末警戒時

動及び年末警戒時

わが町の団長さん

「頼もしい団長」

市川町消防団

北 智裕



市川町は、兵庫県の中央部からやや南西部に位置し、町の中央部を町名の由来となっている清流・市川が流れる伝統と緑豊かな町です。

北団長は、平成一〇年四月に入団以降、持ち前の正義感と熱意で副分団長、分団長を歴任され、平成二二年四月には副団長に、平成二六年四月には第三〇代団長に就任され、現在二六分団、六〇〇名の団員の先頭に立ち、地域の安全と安心を守るため日夜努力されています。

日頃の団長は、規律に厳しい反面、団員への気配りも人一倍細やかで、その人柄は、団員はもとより団幹部からも厚い信頼があります。

そんな団長は、いざ災害が発生するとすばやく現場に駆けつけ、情報収集をするとともに先頭に立って防衛体制を整えるなど、地域住民が安心して暮らせるよう常にリーダーシップを発揮して頑張っておられます。

また、市川町消防団の重点目標を「火災ゼロを地域と取り組む消防団」として地元自治会と合同で消火訓練を行う

など、地域住民に密着し信頼される消防団を積極的に展開されています。

「地域を愛する頼もしき団長」

豊岡市日高消防団

岡本 孝



豊岡市の西部、旧日高町地域を管轄区域としているのが、豊岡市日高消防団です。

管内には、山陰海岸ジオパークエリアである「神鍋高原」があり、春夏秋冬、多くの観光客で賑わっています。

岡本団長は、管内全域を活動範囲とする『特設分団』のご出身で、昭和四六年の入団以来、四四年の長きに渡り団の一翼を担っておられます。

建具店を営まれることもあり、昼夜を問わず、管内全域すべての火災に出動され、その経験と実績は、消防署の方々にも全く引けを取りません。

こんなことがあります。管内に複数のスキー場があるため、有事の際に備え、毎年「冬山遭難救助訓練」を実施しています。この訓練は、ゲレンデ中腹まで歩いて上がり

捜索訓練するという、若手団員でも息の上がるハードなものです。団長も、麓に設置さ

れた現場本部に待機するものと思いきや、団員と一緒に山を歩む姿がゲレンデに。日高消防団五八三名の結束の強さは、団長のこの『行動力』と『熱い想い』が核となって作られていると実感する瞬間でした。

昨今、若者減少等による団員確保や、防災における消防団に期待される新たな役割等、消防団を取り巻く環境は常に変化していますが、その柔軟な発想と思考で、時代のニーズに即した消防団へと導いてくれると期待する頼もしき団長です。

われら若手消防団員

～私にとって消防団とは～

山崎支団 福本 祐規
宍粟市消防団 第三機動分団



私が消防団に入るきっかけは、同じ職場の団員の方に誘われたことでした。誘われた当初、正直、できれば入団したくないと思っていました。その理由は、消防団は休日の訓練や行事が多くあり厳しいイメージを持っていたことと、所属する消防団が、複数の自治会で構成される機動分団であったため、知り合いがあまりいなかったことです。

結局、入ると決意した時も、市役所職員なので地域の防災に協力しなくてはいけないと自分に言い聞かせながら入りました。

しかし、実際に消防団に所属してみると、先輩団員の方に何事もやさしく丁寧に教えていただき、すぐに不安はなくなりました。そして消防団に入らないと出会うことができなかった様々な年代の人と出会うことができ、高校、大学ともに地元ではない私にとって地元との心強い「つながり」を与えてくれる場所となったのです。

これから先、火災、風水害等いろんな現場で活動することになるとありますが、宍粟市消防団山崎支団第三機動分団の一員として弱音を吐かず、住民の安心と安全を守っていきたいと思っています。

がんばってます、女性消防団員

『三年目を迎えて』

三木市消防団

平成二四年四月に三木市初の女性消防団員として私たちが三名が任用され三年が過ぎ去ろうとしています。

私達が住む街は、消防団の無い新興住宅地で消防団という言葉すら馴染みがなく、友達に「消防団に入ったんだけど」と言うと、「消防団って何?」と言った感じで、こんな組織でこんな活動をしているんですと説明できなかった自分たちでしたが、月日の流れとともに徐々に「消防団」という名が定着しはじめました。

三年間の活動を振り返ってみると、毎年四月に行われる消防大会では、プラカードを持って男性団員を先導し部隊行進、式典では表彰状を搬送したり緊張の連続でした。

隔年実施される市操法大会では司会進行、初めの年はシナリオを読むのが精一杯の私たちでした。

吉川町の文化祭で火災予防啓発に赴いた時「女性消防団員ですよ」と声をかけられたことが印象的でした。

平成八年から毎年一月に行われている自由が丘連合自主防災訓練（自由が丘地区は三木市の人口の二割を占める新興住宅地で消防団が無い地域）に二五年から消防団が初参加し、

私達も消防団員の一員として訓練に出動し応急処置を実施しています。

他都市の女性消防団員の皆さんの活動を見聞きする中で自分たちも何かを始めなさんと昨年九月「上級救命講習」を受講、「愛する家族は私が守る」事を小さな一歩として踏み出し一月の末に地域防災訓練での救急法の指導に初チャレンジ。

家族から隣人へ地域へと防災の輪を広げるため自分たち出来る事を一歩一歩コツコツと行っていきたいと思っています。

保育園での防火啓発などでもしたいと思うのですが、主婦であり仕事を持つ中で平日の活動には制約があり、幅広い層から多くの女性消防団員の募集を望んでいます。



上級救命講習より

地域のお知らせ

神戸市東灘区

六甲アイランド・ウェルカムフェスティバル

神戸市東灘区の人工島・六甲アイランドは昭和六三年三月に誕生し、今年で二七年を迎えます。街がひらかれた当初から、住民、企業、団体がそれぞれの横のつながりを深めるための地域イベントが積極的に開催されており、特に春のウェルカムフェスティバル（四月）、夏のR.I.C.サマーイブニングカーニバル（八月）、秋のハロウィンフェスティバル（十月）は数万人規模の行事に成長し、市外、県外からもたくさんの方が訪れます。

それぞれのイベントには東灘消防署職員や東灘消防団団員も積極的に参加しており、消防車の展示や記念撮影、バッテリーカーの試乗や消防活動の広報などを通じて、地域住民との交流を深めています。



六甲アイランド・リバーモール公園を中心とした会場にはたくさんの人が訪れます。

四月に開催されているウェルカムフェスティバルは、その名の通り六甲アイランドに引っ越してきた住民の方や新たに仕事を始める企業、商店にお勤めの方々に対して「ようこそ、六甲アイランドへ！」という歓迎の意味を込めたイベントで、六甲ライナーのアイランドセンター駅を中心に広がる親水公園、リバーモールで開催されています。

イベント会場では地元企業、飲食店などによる模擬店コーナーや全国各地から集うB級グルメ屋台などのテント約五〇梁が並び、地域の学校やダンスチーム、若手ミュージシャンなどが多彩なパフォーマンスを披露するステージプログラムも行われます。そのほか、今では全国的に普及している秋のハロウィンと対をなす春の祭事「イースター」を題材としたプログラムでは、六甲アイランド全体を宝島に見立てた大規模な宝探し「トレジャーエッグハンスト」も実施され、大人も子どもも楽しめる企画がたくさん用意されています。

こういった地域イベントを通じて、ご近所づきあいや企業、団体同士の交流が深まり、また新たなコミュニティや活動が生まれま



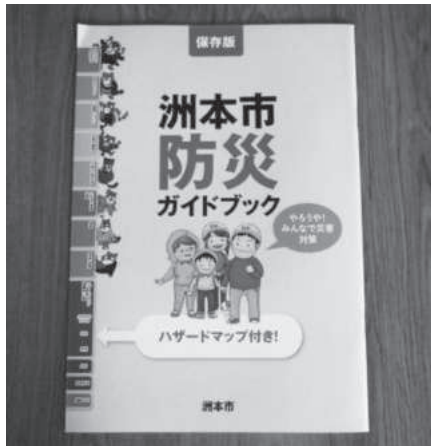
消防ブースでは記念写真の撮影や広報活動を実施しています。

す。そして島外からもたくさんの方が訪れ、イベントをきっかけに六甲アイランドのことを知り、この街に引っ越してきた方々もたくさんおられ、様々な意味で街の活性化につながっています。

どなたでも参加でき、一日中楽しめるイベントになっていますので、ぜひお気軽に足を運んでみてください。

洲本市

完成！洲本市防災ガイドブック（ハザードマップ）



洲本市防災ガイド

洲本市では、平成一八年度に旧洲本地域、平成一九年度に旧五色地域を対象とした防災マップを作成し、住民へ配布していましたが、東日本大震災を契機として、災害関連の法令改正や被害想定、防災に関する考え方や取組等の

見直し、河川の改修など、防災に関する環境が大きく変化しました。このことを受けて、実効性のある防災マップであること、また、最新の防災情報を住民へ提供する必要があると考え、次の目的により、改定版である「洲本市防災ガイドブック（ハザードマップ）」を作成し、平成二六年一二月に洲本市の広報誌である「広報すもと」とともに各世帯へ配布しました。

- ① 住民の防災意識の高揚を図るため
- ② 各種法令が求める、住民に対する災害危険箇所等の周知の手段とするため
- ③ 住民の防災知識の向上を図るため
- ④ 住民が自宅及び周辺等の安全点検及び危険箇所を把握する手段とするため
- ⑤ 住民の災害時対応のための参考資料、行動マニュアルとしての活用のため
- ⑥ 自主防災組織の活動意欲向上の契機とするため

また、これらの目的を踏まえ、被害想定等を伝えるだけではなく、住民に「自助」「共助」について考える契機となるよう防災関連の掲載内容を充実させました。

このガイドブックの仕様ですが、平成一八年度及び平成一九年度に配布した防災マッ

プは洲本市内を一二地区に分けて、それぞれA1サイズの1枚ものであったものを、A4サイズのブックタイプ（七ページ）に集約しました。このことにより、活用時ににおける見やすさ、携帯性等が容易になり、また、防災情報や防災学習情報などの掲載内容についての充実を図ることができました。多彩なイラスト等も活用し、親しみやすい印象を与えるようなガイドブックが完成しました。

今後は、このガイドブックの活用により、市内各地域で特定の地域に特化した内容のハザードマップ作成の契機となること、また、災害危険区域に入っていない区域は、決してセーフティゾーンではないということを周知することが重要であると考えております。

洲本市防災ガイドはインターネットでもご覧いただけます
<http://www.city.sumoto.lg.jp/hp/shoubou/guidebook/sumotoshi.htmjp/html/hakusho/h26/>



洲本より見た大阪湾（イメージ）

報 告

兵庫県消防協会 名誉会長 関山 巧氏ご逝去

（公財）兵庫県消防協会



平成27年3月3日、当協会の関山巧名誉会長がご逝去されました。

関山名誉会長は、昭和22年に三田市消防団へ入団され、昭和48年に三田市消防団長に就任、平成11年4月1日、当協会の会長に就任された後は、日本消防協会の代議員や副会長を務められるなど、兵庫県のみならず全国の消防団の活性化の為、力を尽くしてくださいました。

県内で大きな災害が発生した際には、ご自身の体調が思わしく無い時であっても、被災地へ駆けつけることを最優先にされるような正義感と責任感に溢れた方でした。曲がったことがお嫌い、とても厳しい面もありましたが、常に周囲への細やかな気配りを忘れず、優しさ溢れる方でもありました。

関山名誉会長のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。

なお、平成27年4月19日（日）に、兵庫県消防協会と三田市消防団の共催で、故人を偲ぶ「お別れの会」を、三田市総合文化センター（郷の音ホール・小ホール）にて実施させていただきます。

編集後記

日増しに暖かさを感じられるようになりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月号では、全国消防団員意見発表会、消防庁消防団等表彰式、平成二六年度消防功労者消防庁長官表彰式について掲載しております。受賞された皆様誠におめでとうございます。

また今月号についても各地区からの多数のご寄稿ありがとうございました。

月日が経つのも早いもので、今年度も残りわずかとなりました。来年度も紙面の充実に努めてまいりたいと思っておりますので、今後「兵庫消防」のご愛読のほどよろしく願います。

